

腫瘍分子生物学セミナー

「TET2 遺伝子の白血病で高頻度に変異の起こる Cys-rich region
は K36 メチル化を認識するドメインである」

The epigenetic role of TET2 proteins in the development of
myeloid leukemia

山形一行 先生

Kazuyuki Yamagata Ph. D.

Boston Children's Hospital & Harvard Medical School

2013年11月14日(木)

がん進展制御研究所 4階会議室 17:30 ~ 18:30

山形先生は、筑波大学深水昭吉先生研究室においてアルギニンメチル化によるAkt基質の機能制御（特に転写因子FOXO）のご研究をなさった後(1,2,3)、ヒストンリジン脱メチル化酵素LSD1の発見等で有名なハーバード大医学部チルドレンズホスピタルのYang Shi先生の研究室でポスドクをなさっています。

造血器腫瘍において変異が発見され話題になっているDNAヒドロキシメチル化酵素ファミリーTET2遺伝子(4)の高変異ドメインの機能を明らかにされ、白血病発症のエピジェネティクス機序に迫る発見をされました（投稿準備中）。

今回の一時帰国にあわせ、当研究室にて最新の成果をお話いただくことになりました。がん研内には興味をお持ちの先生がいらっしゃると思いますので、公開セミナーといたします。

1. Yamagata, K. et al., Mol. Cell 32, 221-231 (2008)
2. Takahashi, Y. et al., Cell Metab. 13, 505-516 (2011)
3. Sakamaki, J. et al., Proc Natl Acad Sci U S A. 15, 6085-90 (2011)
4. Langemeijer, S.M. et al., Nat Genet. 41, 838-842 (2009)

連絡先：腫瘍分子生物学 高橋 智聡
TEL：076-264-6750
E-mail：chtakaha@staff.kanazawa-u.ac.jp